

二〇一五年度 入学試験問題

法学部A方式Ⅰ日程・文学部A方式Ⅱ日程・経営学部A方式Ⅱ日程

二限 国 語 (60分)

〈注意事項〉

- 一 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
- 二 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 三 マークシート解答方法については下記の注意事項を読みなさい。

マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって、解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどは使用しないこと)。

一 記入例 解答を3にマークする場合。

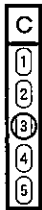
(一) 正しいマークの例



(二) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。



○でかこまないこと。

二 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。

三 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。

四 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

「二」 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

医療とはどういうものかということについて、患者と医師の間で考え方に大きな齟齬^{そご}がある。患者は医療が万能であり病気はすぐ発見され、たちどころに治療できると思っている。また、一部の患者は、自分への奉仕をあらゆることに優先させることを医師に求める。一方、医師は、医療には限界があるばかりか、危険なものであることを知っている。また、多忙な業務の中で、優先順位を付けて行動せざるをえない。メディア、警察、司法が患者側に立つため、この齟齬が社会問題にまでなっている。医師は、患者やその家族の無茶な期待に時として肩入れするメディア、警察、司法から不当に攻撃されると感じている。「攻撃」という強いことばに違和感があるかもしれない。しかし、誇張ではなく、実際に攻撃を受けていると感じているからこそ、あえて私は、このことばを使うのである。

山田太郎氏(仮名)は、一年前、前立腺癌^{*}と診断された。七〇歳のときである。早期前立腺癌であり、痛くもかゆくもない。前立腺癌ということばに衝撃を受けた。死が頭によぎった。死にたくない。紹介され、私の外来を受診した。最初の問題は、どのような治療方法を選択するかである。早期前立腺癌の治療を考える上で最も重要なことは、人間は必ず死ぬ¹ということである。たとえば、三年生存率がほぼゼロの病気があるのに、五年後の生存の確率を高くするために、手術をすることは、残り少ない貴重な時間の一部を奪うことになる。大きな病気がなくても、山田氏が三〇年後に生存している可能性は低い。前立腺癌は一般的に進行が遅い。早期前立腺癌ではどのような選択肢をとろうと、五年以内に死亡することはめつたにない。年齢からみて、現在重篤な病気がなくても、他の病気で五年以内に死亡するかもしれない。

私は、山田氏に治療方法について、文章を渡して説明した。選択肢は、大きく分けて、無治療経過観察、前立腺全摘除術、放射線療法、内分泌療法である。どのような選択をしようか、いずれ前立腺癌を含む何らかの理由で死ぬことは間違いない。

²治療は前立腺癌による死の可能性を減らし、他の原因による死に振り替えようとする努力でもある。癌の治療では、根治手術ということばが使われることが多いが、このことばは、根治に成功するといつまでも生きられるという誤解を与える。根治

しようが、しまいが、人間は必ず死ぬのである。高齢になればなるほど、余命が少ないため、根治のメリットは小さくなる。とくに、前立腺癌のような経過の長い病気では、その意義は小さい。癌の治療に意義があるのは、X 場合だけである。高齢になれば、根治できたとしても、手術による生存期間の延長はないかもしれないし、あつても、そう長いものではない。前立腺癌の根治手術は、一〇年後あるいは一五年後の生存率を高めるために実施する。高齢者では、手術をしてよかつたということになるためには、よほど健康で長生きしなければならぬ。こうした事情もあり、無治療経過観察が選択肢の一つとなる。

³ 医療は検査にしろ、治療にしろ、体にとつて基本的によろしくないことをする。

くすりは英語で、メティシンという。このことばには魔法という意味がある。古来、人間はくすりに対してイフ^Aを抱いてきた。今でも、くすりは「病気の本体」を徐々に治す魔術的なものと誤解されがちである。しかし、薬剤はそのようなイメージで捉えられるものではない。有用な薬剤は明確な薬理作用を有し、人体に影響を及ぼす。薬理作用による影響が、病気の治療に都合がよければ効果とみなされ、それ以外は副作用とされる。効果が大きく副作用が小さければ、薬剤として認可される。有用性の高い薬剤のほとんどは、健康人には有害無益である。しかも、効果や副作用の程度は人により異なり、確率的に分散する。

一方、手術は体に切り込む。前立腺癌に対する根治手術では出血、直腸損傷など、こわい合併症が起こりうる。人体は個人によつて状況が大きく異なる。術者の技量も異なる。術前に結果が正確に予想できるというものではない。前立腺癌の手術では、解剖学上の理由により、前立腺を周囲の正常組織とともに大きく切除することができない。ぎりぎりまで切除せざるをえない。このため、早期癌だからといって、すべて根治できるわけではない。合併症で死に至ることは、めつたに起きないが、可能性がゼロではない。小さい合併症はまれではない。癌の根治手術は体の機能を壊してでも、生存の確率を高くさせようという乱暴な治療である。前立腺癌に対する手術では、前立腺部尿道がなくなることにより、尿を保持する能力が低下する。人によつては尿失禁が生じる。

放射線療法も例外ではない。放射線で細胞のDNAを切断して、細胞を殺す。癌細胞以外の細胞も壊される。前立腺癌の放射線療法では、隣接している直腸に放射線がかかることが避けられない。頻度は低いですが、一部の患者には直腸潰瘍や直腸からの出血が生じる。これは、いったん発症するとめったなことでは治らない。

前立腺癌では、放射線療法、手術療法の報告されている成績に大きな差がない。ケンピ鏡による生検標本の形態の観察で、分化度が高い(みてくれがよい)と診断された場合には、癌としての性質が比較のおとなしいと考えられ、手術療法や放射線療法を行わなくても、前立腺癌が最終的に患者の死因になる確率は高くない。どの治療がよいのか、医師にも分からない。

山田氏は、私の説明を聞き、また、私が作成した前立腺癌一般についての解説文書と、早期前立腺癌に対する治療の説明文書を読み、大きな衝撃を受けたという。山田氏は、孫が二〇歳になるのを見届けたいという強い希望をもっていた。そのときには八六歳になることも分かっていた。人間が死ぬこと、日本人の男性の平均寿命が、七八歳程度であることも理解していた。こうした認識は一つにまともならず、ことばのままにとどまっていた。前立腺癌と診断されたことと、治療方法を考える過程で、全体がユウゴウし、現実感を帯びた。自分の人生の残りの期間が限定されていることを実感したという。このことを山田氏は多くの友人に話した。友人の一部は、医師の責任逃れのための過剰防衛だと評したという。しかし、医師は、患者に永遠の命があるような幻想を持たせて、手術を勧めるわけにはいかない。患者の人格は尊重しなければならぬ。患者の人生は医師の人生ではない。できるだけ正確な情報を提供して、本人に決めてもらうしかないのである。

山田氏は、治療方法を考えるための期間を三か月間おいたあと、薬剤による内分泌療法を選択した。幸い、大きな副作用はなかった。

山田氏の今後の人生は、さまざまな紆余キョクセツを経ながら進んでいく。いずれにせよ近い将来死を迎えることになる。それがいつになるか、何が死因になるのか、医師に予言する能力はない。

人が死んでいくことは、当たり前前のことで、そう悪いことではない。多くの人が生まれ、それぞれの生を営み、あるものは子をなし、死んでいく。世界は死を前提に成立している。未来への希望は変化を意味する。死なしにはありえない。

医療の不確実性は人間の生命の複雑性、有限性、各個人の多様性、医学の限界に由来する。医療行為は生体に対する侵襲を伴い、基本的に危険である。⁵これを患者に正確に分かってもらえようにするのは至難の業である。

(小松秀樹「医療崩壊」「立ち去り型サボタージュ」とは何か」より。文章を一部改変した)

【注】 *前立腺 ヒトを含む、哺乳類のオスのみに存在する器官。膀胱の下に位置し、尿道を包む性器の一部を指す。

問一 二重傍線部A～Dのカタカナを漢字に直して解答欄に記せ。

問二 傍線部1「最も重要なことは、人間は必ず死ぬということである」とあるが、なぜそれが「最も重要なこと」と言えるのか。その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア どのような治療をしてもいずれ人間は死ぬという事実を確認し、その覚悟を決めて治療方法を選択しなければ癌を根治して生き延びることなどできないから。

イ どのような治療をしても老衰や他の病気といった別の原因で患者が死亡する可能性があり、そのような医療の限界を認めなくては癌の治療方法が進歩することはありえないから。

ウ 医療には限界があり、医師は優先順位をつけて行動しなくてはならないので、その結果として患者が死亡する場合があります。あることを認めてもらわなくては、医師は安心して治療を行うことができないから。

エ 早期前立腺癌は五年以内に死亡する可能性の低い病気だが、それでも死亡する可能性があり、死にたくないという患者の希望に完全に応えられるような治療方法はまだ存在していないから。

オ 早期前立腺癌は五年以内に死亡する可能性の低い病気であるため、その期間に老衰や他の病気といった別の原因で患者が死亡する可能性を考慮して治療方法を考える必要があるから。

問三 傍線部2「治療は前立腺癌による死の可能性を減らし、他の原因による死に振り替えようとする努力でもある」とあるが、それはどういふことか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 癌の治療はかならずしも根治を目指すのではなく、患者がその癌以外の原因によって死を迎えるまで、その癌によって死を迎えないようにするものだという事。

イ 癌の治療では投薬でも、手術でも、放射線療法でも根治を目指す、患者は根治すれば老衰によるその死まで、一〇年以上は長生きすることが期待できるということ。

ウ 前立腺癌は進行が遅い癌なので、どんな患者であってもできるだけ治療による危険を冒すことを避け、他の原因による死まで経過観察を行うのが適切だということ。

エ 癌を治療するという事は、投薬による副作用や手術が引き起こす合併症、放射線による不具合など、癌以外の原因で死にいたる可能性を引き受けるものだという事。

オ 死にいたる可能性が高い癌の治療に専念することは、治療方法の危険や老衰、他の病気といった原因による死の可能性を、しばしば見逃してしまう結果になるということ。

問四 本文中の空欄 X に入る表現として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア その癌のために死亡するはずの年齢にいたるまで、他の病気では死なない

イ その癌にかからなければ期待できたはずの、平均寿命まで生き延びられる

ウ 患者がその治療方法を選択することで、完全に癌を治癒することができる

エ 他の病気で死ぬ可能性があっても、少しでも死亡する年齢を遅らせられる

オ 患者が治療を受ける過程で、人間は必ず死ぬという事実を受け入れられる

問五 傍線部3「医療は検査にしろ、治療にしろ、体にとって基本的によりよくないことをする」とあるが、その「よりよくないこと」の内容を説明したものととして、本文の内容に合致するものをつぎの中から二つを選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 医療の本質は、病気を治療することによって、他の原因による死の可能性を高めることである。

イ 検査を行うことは病気を発見しようとすることであり、検査が病気を生んでいるとも言える。

ウ くすりは健康な人にとっては無害だが、病気の人にとっては治療の効果以外に副作用が伴う。

エ 手術は、正確な結果が予測できないのに人体を切り開き、様々な危険を冒す治療方法である。

オ 細胞のDNAを切断する放射線療法によって、頻度は低いが癌細胞以外の細胞を壊すことがある。

カ 前立腺癌では病気による症状と比較して、治療方法を選択するのが難しいほど治療による悪影響がある。

問六 傍線部4「大きな衝撃を受けた」とあるが、その「衝撃」の内容とはどのようなものか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 山田氏は孫が成人する八〇代まで生きたいというささやかな希望をもっていたのに、日本人男性の平均寿命が七〇代であるという厳しい現実を再認識させられたということ。

イ 山田氏が自分の年齢と診断された病気の関係、またその治療方法について考えることにより、知識にすぎなかった人生の残り時間を自らのものとして思い知らされたということ。

ウ 高い確率で安全に病気を治療できる方法がほとんどなく、医師にもどの方法がよいのか判断できないという説明を聞き、山田氏が医師に対して強い不信感を覚えたということ。

エ 山田氏は医師が患者の人生を自分のことのように考えず、治療方法の危険を説明して責任逃れしようとするその姿を見て、医療が万能だという幻想を打ち砕かれてしまったということ。

オ 早期前立腺癌と診断されたという事実により、言葉でしか理解していなかった自分が死ぬという現実を、山田氏にとつてすぐ近くまで迫ったおそろしい出来事になったということ。

問七 傍線部5「これを患者に正確に分かってもらえようにするのは至難の業である」とあるが、それはなぜか。本文全体の内容を踏まえて三十五字以上、五十字以内で解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

〔二〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

アメリカの法学者キャス・サンステイーンは、インターネットを中心とした情報通信技術の発達が民主主義の基盤を危うくする可能性について警鐘を鳴らしている。

民主主義とは単に多数決で物事を決定することではなく、共通の知識や問題関心の上に立って討議することにより合意を生み出していくことである。そのためには、人びとは時には特別に興味を持っていない話題や視点にも触れる必要があるのだが、インターネット上では自分が興味を持つ情報だけを選別し、接触するフィルタリングの技術が発達してきている。

もちろん、インターネット自体は多くのの人にとって視野を広げる機会となり、新しい話題や考えとの出会いを可能とする面も持つ。しかし、それでもインターネットは考えの似た者同士の交流を容易にすることによって、集団分極化へのリスクを高めているというのだ。集団分極化とは集団で議論することにより、メンバーがもともと持っている主張より極端な立場へシフトすることを指すのだが、インターネットは同じような考え方の人間を集めやすいため、そのなかでの議論を通じて、人びとはより過激な立場をとるようになる。なぜなら、同じような考え方をする人たち同士が気軽に頻繁に話し合い、反対意見を聞く機会があまりなくなるためである。

また、その過程には、カスケード(小さな滝、わかれ滝)という現象も関わる。ほとんどの人は重大な事柄について直接的なあるいは確かな情報を持ち合わせていないがゆえに、他人からの情報に頼らざるをえない。よく知らないことであれば、何人がある意見を支持していると聞かされると、支持するようになる。支持者が増えれば、そのことが信頼性を担保するものとなり、ますます多くの人に受け入れられるようになる。このように情報——正確なものでもよいし、虚偽でもよい——が一斉に広まっていく過程を、サンステイーンはカスケードとして捉えている(「インターネットは民主主義の敵」)。

① 人びとが知らないところで巨大な権力が世界を動かしているといった陰謀論は、このようなインターネット・コミュニケーションの特徴によって流行しているものの一つであろう。陰謀論をもっともらしく思う人にとっては、インターネットでは

2 「事実」に接触でき、同じ「事実」を共有する多くの仲間に出会うことができる。3 このような状況は日常生活のなかではあまりない。そして、インターネット上の仲間内の議論は、より極端な方向へと展開する。

② 一方、陰謀論を信じない人にとっては、虚偽やうわさ、デマを広める陰謀論のサイトが増殖し、極端になっていくように見える。インターネット上は A 話が多いという印象を持つ。インターネットがうわさの巣窟とされるのは、単に情報が多いからというわけではなく、また事実関係のあやふやな情報が多いからというわけでもない。それだけでなく、むしろ、⁴ 特定の立場からの「情報」が集まることで増殖するところにある。

③ ただし、サンステイーンが述べる集団分極化やカスケードはインターネット上で起こる現象ではない。集団分極化は「リスクシフト」、あるいはその逆の「コーシャスシフト」として、社会心理学で取り上げられてきたトピックスの一つである。リスクシフトは一人ひとりの個人より集団による意思決定がより過激なものとなることを指すものであり、たとえば「赤信号みんなで渡ればこわくない」といった言動がこれにあたる。コーシャスシフトはその逆で、集団での意思決定が安全志向になることである。

④ しかし、集団分極化やカスケードがインターネット上で起こりやすいとするならば、それはやりとりが保存され、公開されているためであろう。日常生活のなかでは知り合うことができる人が限られているだけでなく、対面での会話は基本的にその場限りで消えていく。あるテーマについて話をする場合、その場に居合わせる必要がある。

⑤ これに対してインターネット上には、多種多様な情報と多種多様な人とコミュニケーションする場が常に開かれている。このため、日常生活では接する機会の少ない意見や立場にも接触でき、自分の都合に合わせて議論に参加することができる。ゆえに時空間を超えて考えが似た者同士が集まりやすく、そのなかで議論が繰り返されることによって、集団分極化が促進される可能性がある。

また、インターネットでは周囲の状況も見えやすい。正確には、個人が見たいと望む「周囲の状況」を見ることが可能である。日常生活のなかでは、周囲の人たちがあるテーマについてどのような考えを持っているのか、把握することは容易ではない。

友だちと一対一で、あるいは集団で話をするなかで、周囲の人たちのあいだでどんな情報や考え方が当たり前とされているのか、あるいは、自分が持っている考えは少数派とみなされているかなどの推測はできるのだが、実際に多くの人に考えを聞く機会はなかなかない。

一方、インターネット上では個人が望む立場を支持する情報に数多く接することができる。検索をして、あるいはリンクをたどって特定の立場からの情報に接するうちに、それが多数派であると誤認する。インターネット上の多数の情報のおかげで、自分もつともらしいと思う情報を支持する人を見つけることのほうが、反対派を見つけるよりはるかに容易である。

このように考えるならば、インターネットの公開性は集団分極化やカスケードを促進することで、立場を同じくしない人からは「うわさにみえるもの」を増殖させることとなる。もつとも、サンステイーンの議論には批判も多く、インターネット利用者は選択的に自分の見たい情報だけに接触するのではないという実証的な研究結果もある。インターネット利用がより日常化するなかで、インターネットの持つ技術的な可能性ではなく、人びとが実際にどのように情報に接触するようになるのか引き続き検討が必要であろう。

(松田美佐「うわさとは何か」より。文章を一部改変した)

問一 傍線部1「インターネットを中心とした情報通信技術の発達が民主主義の基盤を危うくする」とあるが、その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア インターネット固有の現象である集団分極化によって、人々の意見が極端な方向に偏ってしまうと、自分とは異なる意見や視点についての知識が乏しくなるため、民主主義に不可欠な討議が十分にできなくなるから。

イ 情報のフィルタリング技術が近年飛躍的に発達し、人々が自分とは異なる意見から無意識のうちに目を背けるようになったことで、民主主義の大前提である議論の場がインターネットにより無力化されつつあるから。

ウ 自分と同種の意見に触れることでさらに極端な意見を持つようになる集団分極化によって世論が二極に分化してしまふと、民主主義の大前提である議論だけでは合意点が見いだせなくなってしまう危険性があるから。

エ フィルタリング技術の発達によって、自分と意見を異にする他者との出会いがますます困難になりつつあり、便利なのはインターネットによって民主主義の基盤である自由な討議の機会が奪われつつあるから。

オ 意見の異なる人々と出会う機会が少なくなり、自分の興味・関心のない問題についての知識が乏しくなると、共通の知識や問題関心の上に立って討議し、妥協点を見いだすという民主主義の土台が崩れてしまうから。

問二 傍線部2「事実」にカギ括弧が付されている理由を、つぎの形式に従って、十五字以上、二十五字以内でまとめ、解答欄に記せ。ただし、読点や記号も一字と数える。

から。

問三 傍線部3「このような状況は日常生活のなかではあまりない」とあるが、その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 日常生活でも実に多種多様な人々と知り合いになることはできるが、世界を動かすほどの大きな陰謀について確かな情報を持ち合わせている人々と知り合う機会はほとんどないから。

イ 日常生活では、インターネットのように匿名性を保って議論することができないため、陰謀論のように危険な問題について語ろうとする人がそもそも出現しないから。

ウ 日常生活では互によく知っている間柄でのみコミュニケーションを行うため、カスケードのように情報が一気に拡散するとしても、せいぜい自分の周囲の知人に限定されるから。

エ 日常生活にはインターネットのような検索機能やフィルタリング機能がないので、自分と同種の興味や関心を強く持った人々が集まる機会が限られてしまっているから。

オ 日常生活のコミュニケーションは、顔見知りによって行われるため、インターネットのように集団分極化が起こることとはなく、むしろ逆のコーシヤスシフトが起こりやすいから。

問四 空欄 A に入る表現として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄に記号をマークせよ。

ア 荒唐無稽な

イ 一知半解な

ウ 軽妙洒脱な

エ 羊頭狗肉の

オ 虚心坦懐の

カ 竜頭蛇尾の

問五 傍線部4「特定の立場」の説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 正しい情報を知っている唯一の立場。
- イ その情報を支持している人と同じ立場。
- ウ 少数派ではなく、勝ち残った多数派の立場。
- エ 集団分極化によって二極化した、相反する立場。
- オ 人々を特定の意見へ誘導し、煽動しようとする立場。

問六 つぎの中から、本文で述べられている内容と合致するもの一つを選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 誤った情報がインターネットで流れ、それが一気に拡散されていく現象をサンスティーンはカスケードと呼んでいるが、これこそがインターネットの特性の一つであり、インターネットが「うわさにみえるもの」の巢窟であるかのように誤解される一因になっている。

イ フィルタリング機能や検索機能が容易に利用できるインターネットの普及により、現代の人々は自分と同種の意見を持つ人とだけ交流しがちになってしまったので、筆者は、自分と異なる意見に触れることができる可能性をインターネットよりもむしろ日常生活の方にこそ見いだしている。

ウ 集団分極化やカスケードの危険性については、以前から社会心理学者らによって指摘されてはいたが、現代社会においては、それらの問題ではなくむしろリスクシフトの方が大きな問題になっており、それを解消するためにはインターネット技術に関する研究だけでは不十分だと筆者は考えている。

エ 集団分極化やカスケードによって、人々の意見がより過激で偏ったものになることを防ぐためには、筆者は、インターネットの技術的側面だけでなく、我々が実際に接している情報の内容的側面についても調査・研究しなければならぬと考えている。

オ サンスティーンという集団分極化には、例えばリスクシフトのように集団の意見がますます危険なものへと傾倒する場合もあれば、コーシヤシフトのように危険を避けて安全志向になる場合もあるが、インターネットの世界ではそのような現象が日常生活よりも短時間で起こる可能性がある。

問七 本文を前半部と後半部に分ける場合、後半部の最初の段落として最も適切なものを本文中の①～⑤より選び、解答欄の番号をマークせよ。

〔三〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

かの維義こゑよしは恐ろしき者の末なりけり。例へば、豊後国の片山里に昔、女ありけり。ある人の一人娘、夫もなかりけるがもとへ、母にも知らせず、男よなよな通ふ程に、年月も重なる程に、身もただならずなりぬ。母これを怪しんで、「汝がもとへ通ふ者は何者ぞ」と問へば、「来るをば見れども、帰るをば知らず」とぞ言ひける。「さらば男の帰らむとき、しるしを付けて、行かむ方をつないで見よ」と教へければ、娘、母の教へにしたがつて、朝あさ帰する男の水色の狩衣を着たりけるに、狩衣の頸くびかみに針をさし、しづしづの緒環おとまりといふものを付けて、経て行く方をつないで行けば、豊後国にとつても日向さかひ、優婆岳うぱがくといふ嵩たけの裾、大きな岩屋の内へぞつなぎいれたる。

女、岩屋の口にたたずんで聞けば、大きな声してによひけり。²「わらはこそこれまで尋ね参りたれ。見けん参せんせむ」と言ひければ、「我は是、人の姿にはあらず。汝、姿を見ては肝たましひも身にそふまじきなり。とうとう帰れ。汝がはらめる子は男子なるべし。弓矢打物うちものとつて九州二島にならぶ者もあるまじきぞ」とぞ言ひける。女重ねて申しけるは、「たとひいかなる姿にてもあれ、この日ひ来このよしみ何とてか忘るべき。互に姿をも見もし見えむ」と言はれて、「さらば」とて、岩屋の内より臥ふただけは五六尺、跡枕あとまくらべは十四五丈もあるらむとおほゆる大蛇にて、動揺してこそはひ出でたれ。狩衣の頸かみにさすと思ひつる針は、すなはち大蛇ののどぶえにこそさいたりけれ。女これを見て、肝たましひも身にそはず。引き具したりける所ところ従したがう十余人倒れおためき、をめきさけんで逃げ去りぬ。

女帰りに程なく産をしたれば、男子にてぞありける。母方の祖父だいにん太大夫、育てて見むとて育てたれば、いまだ十歳にも満たざるに、せい大きに顔ながく、たけ高かりけり。七歳にて元服せさせ、母方の祖父を太大夫といふ間、これをば太太だいたとこそつけたたりけれ。夏も冬も手足に大きなあかがりひまなくわれければ、あかがり太太とぞいはれける。件くだんの大蛇は日向国にあがめられ給へる高知尾たかちの明神の神体なり。この緒方おとの三郎は、あかがり太太には五代の孫なり。

(「平家物語」より)

【注】

* 維義

緒方三郎維義。平安時代末期の豊後国（現在の大分県）の武士。

* 例へば

「詳しくいうと」の意味。

* 頸かみ

えりの部分。

* しづの緒環

倭文（古）（古い日本風の織物）を織るために、輪状に糸を巻いたもの。

* あかがり

あかぎれ。

問一 傍線部1「なかり」2「わらは」3「とうとう」の品詞として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号を

マークせよ。

- ア 名詞
- イ 代名詞
- ウ 動詞
- エ 形容詞
- オ 形容動詞
- カ 副詞
- キ 連体詞

問二 傍線部①「べし」②「まじき」③「む」の文法上の意味として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号を

マークせよ。

- ア 打消
- イ 打消意志
- ウ 打消推量
- エ 推量
- オ 現在推量
- カ 意志
- キ 禁止
- ク 婉曲
- ケ 命令

問三 傍線部A「身もただならずなりぬ」の意味として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 重病になった

イ 立場が悪くなった

ウ 蛇の姿に変わった

エ 高貴な姿に変わった

オ 身ごもった

問四 傍線部B「大きな声してによひけり」のうち、「によひ」は「うなる」という意味である。岩屋の内よりそのような声が聞こえてきた理由を二十字以上、三十字以内で説明し、解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

問五 傍線部C「たとひいかなる姿にてもあれ、この日來のよしみ何とてか忘るべき」の解釈として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 仮にあなたが別の姿に変化したとしても、あなたとのこれまでの関係をどうして忘れることがあるでしょうか。

イ もしもあなたが別の姿に変貌するのでしたら、これからもあなたの慕わしい姿を忘れたくはありません。

ウ 仮にあなたが人間の姿でなかったとしても、これまでの親しい交わりをどうして忘れられるでしょうか。

エ もしもあなたが人間でなかったとしたならば、これまでの慣れ親しんだあなたの姿を忘れたくはありません。

オ 仮にあなたがいくつもの姿を持っていたとしても、これまでのあなたの姿を忘れる必要があるのでしょうか。

問六 本文の内容に合致する文として適切なものをつぎの中から二つを選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 毎夜自分のもとに通ってくる男の素性を知りたかった女は、母親に事情を打ち明けた。

イ 女は毎夜通ってくる男の素性を知るために、緒環につけた糸を頼りに男のあとを追った。

ウ 女は毎夜通ってくる男が大蛇だと知っても、なお夫婦の関係を続け、一人の男子を出産した。

エ 女とその子孫は、死んだ大蛇の魂を鎮めるため、高知尾の明神としてこれを祀った。

オ 女と大蛇との間に生まれた子があがり大太で、その子孫が緒方三郎維義である。

カ 緒方三郎維義は幼少の時から大柄であったので、わずか七歳で元服を行った。

問七 『平家物語』と同じ時代に成立した文学作品をつぎの中から一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 大和物語

イ 義経記

ウ 太平記

エ 方丈記

オ 今昔物語集